



【第137号 目次】

- ・教育コラム「磨」
- ・特集 基礎講座Ⅰの報告
- ・講座案内
- ・お知らせ
- ・速報



## 磨

### 教科研究センター講座「基礎講座Ⅰ」から——「対話」で理解が深化する

学校支援部長 上岡 美保

「人は学び続ける生き物である」、また、「自分で学ぶ力を潜在的にもっている」という頼もしい言葉を目にした。人は生まれつき、身のまわりにあるものごとや自分が経験したことの中に規則性を見出す仕組みをもっているらしい。さらに、自分の経験と、他者から聞いたことや書物などから得たことを結びつけて知識や理解を深め、視野を広げていく。自分の考えを他者に話し、相手の考えを聞き、それを繰り返しながら、新たなことを知ったり知っているつもりだったことを修正したりして、表現を変え、自分の考え自体を変えて、よりよい解を見出していくということである。こういう建設的な変化をもたらすのは、人と人との「対話」である。対話には参加する人の考えを少しずつ変えていく仕組みが組み込まれているらしい。

「対話」とは、お互いの考え方の違いを十分に踏まえたうえで、違いを理解して新たな視点を見出していくコミュニケーションと言える。この時、「ことば」が共通の記号として力を発揮する。余談になるが、「他者と向き合い、他者に伝わることばを丁寧に発する」等ことばや他者の存在については、高知市夏期大学「『伝える』と『伝わる』の間」と題した高村 薫氏のご講演もあった。

7月2日（土）に、教科研究センター講座「基礎講座Ⅰ」を実施した。初回は「学習指導案づくり」をテーマに、講義と2種類の演習を行った。詳細は、次ページからの報告をお読みいただきたい。

演習は、「自分で考える・各自が発表して他者の考えを知る・協議する・全体共有する」という流れで進めた。その過程で、受講者に気づきをもたらされ、考えが変化し深まっていく様子が発言内容や表情からも直に伝わってきた。最終の振り返りには「省察」の姿勢があり、明らかに受講前との「変容」が見て取れた。こういった変化の要因は、「主体的」な取組に加え、「対話」による効果であったと思われる。受講者が、小・中・高・特別支援学校の講師や異なる大学・学年の学生というように経験を異にする多種多様なメンバーであったことも、「対話」に相乗効果をもたらしたと思われる。と言っても、「変容」はそう容易なものではない。年齢を重ねるごとに経験が増えていく一方では、自分の考えをなかなか変えられない現状もでてくる。新たに得た視点を深めて自分のものにしていくには、相応の意識と取組がいる。

さて、学習指導要領では、社会の変化が早く、将来予測の困難な時代を生き抜くための力を身につけ、生涯にわたって学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。子どもたちには、「学び方」を学び、自ら考え仲間と協働して課題解決に向かう力を身に付けてほしい。

課題に対して、自分たちの考えをことばに出し合って考えを深めていく学習者中心型の学習の一つに、「協調学習」（「知識構成ジグソー法」）という授業実践の手法がある。本県では、高知南中・高等学校を中心に取り組んでいる。実践されている方も多いと思われる。教科研究センターでは、11月19日に、特別講座Ⅱ「協調学習の授業づくりに関する講座」を開催する。

学力向上には、まず指導力の向上が求められる。先生方は教育に携わるプロとして、学習者の学びを引き出す指導を日々工夫されている。ぜひ、多くの方に受講していただき、「対話」によって学びを深める仕組みや手法について、教える側も協働して学び、指導の幅を広げ深めていきたい。



参考：「教育心理学特論」（放送大学教育振興会）『ことばと思考』（岩波新書）他

## 特集

## 令和4年度 教科研究センター講座 基礎講座Ⅰの報告

### ～学習指導案づくり～

教科研究センター（本部）アドバイザー 野村 貴子・東川 美知子

7月2日（土）、教科研究センター講座「基礎講座Ⅰ」が教育センター本館で行われました。はじめに、高知県教育センター竹本 佳奈チーフが、学習指導要領の目指す授業の趣旨と学習指導案の内容等について講義を行いました。その後、講義で学んだことをもとにモデル学習指導案を検討したり、各自が持参した学習指導案を評価し合ったりして、付けるべき力の育成を目指した学習指導案づくりについて学びました。

### 1. 講義の概要

学習指導要領では、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何ができるようになるか」という観点から、育成を目指す資質・能力を「知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養」の三つに整理しています。これらの資質・能力を育成するために、「何を学ぶか」という観点から、各教科等の指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか（主体的・対話的で深い学び）」という子供たちの具体的な学びの姿を考えながら授業を構成していくことが大切です。そのためには、学習指導案をしっかり考える必要があります。そうすることで、何を指導するのが明確になり、どのように指導するのが具体的になります。また、授業のどの場面でものように児童生徒の学習の達成状況を評価するかということも意識化されます。これらのことを確認したうえで、学習指導案に記述すべき内容や具体的な書き方を学びました。特に、単元の目標と評価規準との整合性がとれていること、また、本時の指導では、学習活動、指導上の留意点、評価規準・評価方法に整合性がとれていることが重要です。

最後に、学習評価は、教師にとっては児童生徒の学習の状況を評価し指導改善につながるものであること、また、児童生徒にとっては学習を振り返り、学習改善につながるものとしていくことが大切であることを学びました。

《 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 》

学習評価の基本的な考え方や、各教科等における評価規準の作成及び評価の実施等について解説をしているほか、各教科別に単元や題材に基づく学習評価についての事例が紹介されています。

文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター



### 2. 演習の概要

#### 【学習指導案を考える】

演習用のモデル学習指導案（小学校第3学年国語科教材『うんとこしょ』）を用いて、本時の目標と評価規準に基づく学習展開の指導上の留意点について考えました。まず、個人思考を行い、それからグループで指導上の留意点について協議しました。協議では、詩の中の「うんとこしょどっこいしょ」や「もちあげる」という言葉に着目させ、既習事項や経験をもとに考えさせる、動作化させイメージを広げさせるなど、目標に迫る指導上の留意点を考え合うことができました。



### 3. 協議の概要

#### 【学習指導案を検討する】

続いて、「本時の指導チェックリスト（一部抜粋）」に基づき、各自が持参した学習指導案について吟味しました。

その後、各々の学習指導案について意見交換を行いました。その中には、「評価をどこで、どのようにするのが学習指導案で明確になっていない」、「評価が多すぎる。目標に合う評価を絞ることが必要である」、「本時の目標とその評価が、整合していない」、などの意見が寄せられ、互いに学習指導案を検討し合うことで新しい気づきが生じていました。



## 学習指導案「本時の指導」チェックリスト（一部抜粋）

### 本時の評価規準

- ・ 本時の評価規準は、本時の目標に対する「おおむね満足できる（B評定）」状況を判断できるものになっている。

### 展 開

- ・ 本時の目標に迫る学習活動が展開されている。
- ・ 児童生徒が思考したり活動したりする時間が十分に確保されている。
- ・ ねらいに応じて、意図的・効果的に学習形態の工夫がなされている。
- ・ 本時の目標の達成に向けた手立てが具体的に示されている。
- ・ どのような方法で評価するのか、評価方法が明確に示されている。



### 全 体

- ・ 「学習活動」は、児童生徒の立場から記述している。
- ・ 「指導上の留意点」は、教師の立場から記述している。

基礎講座の参加者は、大学で学んでいる学生から現在教職に就いている方々と経験も指導教科も校種も異なっていました。しかし、本講座で学習指導案づくりについて学ぶという研修の目的が同じであることから、活発な意見交換が行われました。最後の振り返りでは、「大学で学んだこと以上に学習指導案の意義や書き方について学ぶことができ、参加してよかったです。」「講義がとても分かりやすく、ポイントを知ることができて、よかったです。」「今後生きる研修でした。」という感想があり嬉しく感じたことでした。

## 《 指導アドバイザーのコメント 》

学習指導案は、学習指導要領に基づいて作成します。学習指導要領は教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準であり、それぞれの教科等の目標や教育内容を定めているものです。学習指導案を作成するときは、必ず学習指導要領を読み、目標や内容について理解し、それに基づいて作成しましょう。

学習指導案は授業の設計図です。目標と評価が整合しているか、いつ、どこで、どのように評価するのかなど、学習指導案の項目や書き方について十分理解し、作成することが大切です。

子供主体の学びは、子供が学ぶ意欲をもって学習することです。そのためには子供一人一人の学習状況を丁寧に見取り、授業を考えるときには意図的で緻密な指導の手立てや準備が必要です。

学習指導案の作成には、教材研究が欠かせません。教材の価値が見えないと子供たちに付けるべき力は見えてきません。しっかり教材研究をして教材を理解することが大切です。また、学習に取り組む目の前の子供達の状況が把握できていないと子供達に力を付けることはできません。一人一人の子供の実態を把握することで指導の手立てや工夫が見えてきます。

教科研究センターでは、授業づくりや教材作成に関するご要望やご相談に応じています。ぜひ、ご来室ください。

### （参考・引用文献）

学習指導要領の解説 文部科学省

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター  
令和4年度 若年教員研修のしおり「子どもと生きる」 高知県教育センター

「高知県授業づくり Basic ガイドブック」 平成29年度改訂版 平成29年10月 高知県教育委員会

「高知県授業づくり Basic ガイドブックー小中学校編ー」 令和4年3月 高知県教育センター

「高知県授業づくり Basic ガイドブックー高校授業編ー」 平成30年3月 高知県教育委員会

高知県教育センターホームページに掲載しています。





## 講座案内

あなたも教科研究センター講座に参加してみませんか？

### 令和4年度教科研究センター講座 特別講座Ⅰ「郷土資料の活用Ⅰ」

- 1 期 日 令和4年10月15日(土) 13:30~16:00 (受付 13:15~13:30)
- 2 会 場 高知県立高知城歴史博物館 1階ホール 高知市追手筋2丁目7番5号
- 3 対 象 高知県内の教職員及び教育職を志す人
- 4 内 容 土佐藩の参勤交代

今回の講座では、土佐藩の参勤交代についてご紹介します。学校の歴史の授業で必ず取り上げられるテーマであり、また県内各地の地域学習を進めるうえでも魅力的なテーマの一つと思われます。

そこで今回は、土佐藩の参勤交代について、経路や日数・人数・費用などの基本的な事項をはじめ、参勤交代をめぐる幕府との関係、あるいは道中での事件やできごとなどをご紹介します。土佐藩の大名行列の様子を描いたとされる絵巻の紹介など、授業作りの参考となる各種資料もご紹介します。

※講座終了後、希望される方は展示室をご見学いただけます。

- 5 講 師 高知県立高知城歴史博物館 副館長 横山 和弘
- 6 申 込 10月6日(木) 16:30 締切

### 令和4年度教科研究センター講座 基礎講座Ⅱ「授業づくりで大切にしたいことⅠ」

- 1 期 日 令和4年10月22日(土) 10:00~12:30 (受付 9:45~10:00)
- 2 会 場 高知県教育センター 3階大研修室(高知市大津乙181)
- 3 対 象 高知県内の教職員及び教育職を志す人
- 4 内 容 「授業づくりで大切にしたいことⅠ」

#### 講義 「教材研究」「板書の基礎・基本」

「教材研究って何?」「教材研究のポイントは?」など教材研究の仕方と板書の基礎・基本を学びます。

#### 演習 「板書計画の演習」「グループによる意見交換」

グループで道徳(予定)の資料をもとに板書計画をたてる演習を行います。演習後の協議では、グループで作成した板書計画を見合いながら意見交換をします。

- 5 申 込 10月12日(水) 16:30 締切

## お知らせ

### 気象状況による教科研究センターの閉室について

教科研究センターの所在する地域に、大雨特別警報、暴風特別警報、暴風警報が発令されている場合は、その日を閉室します。

また、台風の接近等が予想される場合には、警報発令前でも、閉室する場合があります。この場合は、教科研究センターのホームページに掲載しますので、ご確認ください。



## 教具の貸出しについて

教科研究センターでは、アーテックロボ、コード・A・ピラー（本部のみ）やボッチャの貸出しを行っています。詳しくは、各教科研究センターにお問い合わせください。



## 速報



教科研究センター（本部・東部・中部・西部）

令和4年7月の利用者状況 **299名**

◆◇ご利用ありがとうございました◆◇



《 教育センターの四季：  
常夏の花 ハイビスカス 》

教科研究センター（本部）	高知県教育センター2階（高知市大津乙181）	TEL/FAX 088-866-3903
東部教科研究センター	安芸総合庁舎4階（安芸市矢ノ丸1-4-36）	TEL/FAX 0887-34-8051
中部教科研究センター	中部教育事務所1階（吾川郡いの町枝川2410-7）	TEL/FAX 088-893-6597
西部教科研究センター	幡多総合庁舎3階（四万十市中村山手通19）	TEL/FAX 0880-35-6251

教科研究センターホームページアドレス <https://www.kochinet.ed.jp/studycenter>